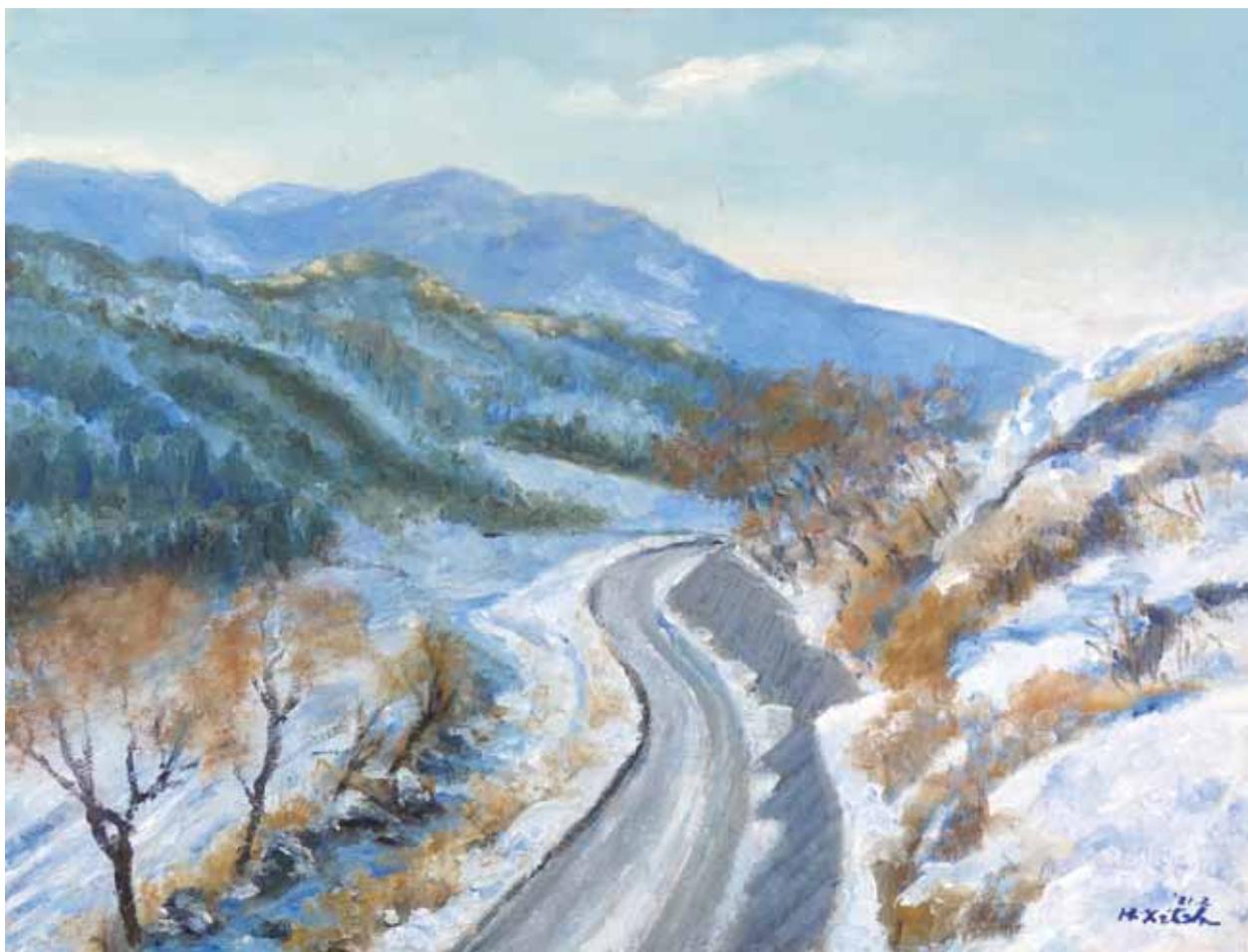


福 井 県 医 師 会

だより

第728号 令和4年(2022)2月



早春の午後 福井市 加藤 初夫

表紙写真説明：早春の午後

福井市 加藤 初夫

このような風景に出会うと雪国の住人でよかったとつくづく思う。東京で暮らしていた頃は冬の青空に魅力も感じていたが、今になってみると雪の匂いがより心地よい。雪の白さを表すのに、シルバー、チタニウム、パーマネントの3種のホワイトを使う。それぞれのホワイトの特徴が出せたら一応満足となる。

醫 縫 録

敦賀市医師会長就任あいさつ

敦賀市医師会長 神谷 敬一郎



令和3年6月6日をもちまして敦賀市医師会長に就任致しました。副会長の宮川和彦先生、林信太先生共々宜しくお願い致します。敦賀市医師会は、明治21年敦賀医師組合として発足し、その後敦賀郡医師会、敦賀郡市医師会など改変を重ね、昭和30年郡制廃止に伴い、敦賀市医師会に改称され現在に至っております。初代会長の大島淑先生から数えて、私で第17代会長となります。現在の会員数は100名となっております。

当医師会でも他の医師会同様に、医道の高揚、医学の発達並びに公衆衛生の向上を図り、社会福祉を増進し、地域医療に貢献するため、様々な活動を行っております。2年間のコロナ禍の中、十分に活動できていない分野はありますが、地域の予防接種・検診・災害救急医療活動・学校保健・感染症対策・健康スポーツ・在宅医療介護・産業保健・病診連携および病病連携、さらには学術講演会や症例検討会などを積極的に開催し日々進歩する医学の研鑽に励んでいます。特に、昭和49年の北陸トンネル内での大火災事故などの過去の事例や、原発立地地域としても災害医療の充実は必須であり、毎年医師会独自で行う災害時の医師会員間の連絡網のチェックに加えて、隔年で行政、関連機関が一体となって行う大規模な防災訓練では、トリアージ訓練などに積極的に参画しております。

さて、福井県同様に敦賀市でも人口減少、少子高齢化社会を迎えております。将来的にも人口の増加は望めず、あらゆる分野で人手不足の進行が危惧されます。医療介護分野も例外でなく、医師、看護師などの医療専門職や介護職などの不足などなかなか改善しておらず、市民に健全な医療を提供するためには、行政との連携は勿論あらゆる職種との連携が必要不可欠と思われまます。少子高齢化社会等の人口構成の変化や慢性疾患の増加による疾病構造の変化などからみても、かかりつけ医と高度医療機関との役割分担や病診連携など地域

医療の充実がますます重要と考えます。我々医師会としても、中核病院の機能や地域の病床の再編を目的とした国の「地域医療構想」を受けて、病院とかかりつけ医間での診療情報の提供や、患者の紹介や逆紹介の促進、開放型病床の利用等など、かかりつけ医と高度医療機関との役割分担をさらに進めていく必要があると思われまます。また、重複多剤服薬問題での多職種連携体制検討事業や、昨年、敦賀地区歯科医師会と共催で開催した「骨粗鬆症患者における顎骨壊死対策」などの講演会や三師会交流行事など、積極的に医科、歯科、薬剤科との連携も強めたいと考えております。

とはいえ、私が就任した令和3年6月は未だ新型コロナウイルスが蔓延しており、就任後6か月間はコロナ対策が中心で、医師会活動は、まだまだ滞っております。幸い、日本では、ワクチン接種が功を奏したようで、9月以降から感染者は減少傾向となり、11月現在では小康状態となっております。敦賀市のワクチン接種状況としては、当初は20歳代から40歳代の若年層では、接種に躊躇される方も散見されましたが、10月末の時点では、2回目のワクチン接種率は若年層でも80%に近づき、全体では85%となりました。また11月から県の依頼で敦賀で始まった宿泊療養施設への on call 対応には敦賀市のみならず二州地区全体から30名の会員に参加していただきました。オミクロン株の出現など、コロナ禍はまだまだ予断の許さない状況ですが、コロナ禍を乗り越えた先も見据えつつ、医師会員の先生方とともに、市民にとって有意義な医師会となりますよう頑張りたいと思っておりますので、今後共、ご助言ご指導宜しくお願い致します。